

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3233693号
(U3233693)

(45) 発行日 令和3年8月26日 (2021.8.26)

(24) 登録日 令和3年8月5日 (2021.8.5)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 5 C 7/00 (2006.01) A 4 5 C 7/00 H

評価書の請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2021-2351 (U2021-2351)
(22) 出願日 令和3年6月17日 (2021.6.17)(73) 実用新案権者 521265092
株式会社エスエスティー
東京都中央区日本橋堀留町2-9-8-6
F
(74) 代理人 100089026
弁理士 木村 高明
(74) 代理人 100091580
弁理士 宮尾 雅文
(72) 考案者 天沼 奈津子
東京都中央区日本橋堀留町2-9-8-6
F 株式会社エスエスティー内

(54) 【考案の名称】 折畳バッグ

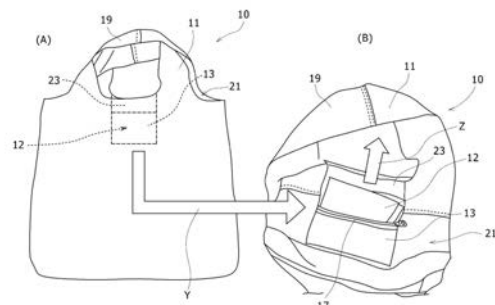
(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 より一層使い勝手のよい折畳バッグを提供する

。

【解決手段】 大型バッグ11と、前記大型バッグとは分離され独立して使用できる小型バッグ12とを備え、前記大型バッグは、前記小型バッグを折り畳んで収納できる袋状収納部13と大型バッグ本体部を折り畳んで収納できるポケット部とを有し、携帯時には、前記大型バッグ本体部を折り畳んで前記ポケット部へ収納し、使用時には前記大型バッグ本体部を前記ポケット部から抜き出し、展開して使用すると共に、前記袋状収納部から前記小型バッグを取り出して展開して使用するように構成されたことを特徴とする折畳バッグ。

【選択図】 図6



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

大型バッグと、前記大型バッグとは分離され独立して使用できる小型バッグとを備え、前記大型バッグは、前記小型バッグを折り畳んで収納できる袋状収納部と大型バッグ本体部を折り畳んで収納できるポケット部とを有し、

携帯時には、前記大型バッグ本体部を折り畳んで前記ポケット部へ収納し、使用時には前記大型バッグ本体部を前記ポケット部から抜き出し、展開して使用すると共に、前記袋状収納部から前記小型バッグを取り出して展開して使用するように構成されたことを特徴とする折畳バッグ。

【請求項 2】

前記ポケット部は前記袋状収納部の裏面側に設けられ、前記袋状収納部の側面形状および大きさと同一に形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の折畳バッグ。

【請求項 3】

前記袋状収納部は、平面長方形に形成され、ポケットティッシュを保持した状態で収納できるサイズに形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の折畳バッグ。

【請求項 4】

前記袋状収納部は前記大型バッグの開口部の内方に設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の折畳バッグ。

【請求項 5】

前記袋状収納部にはファスナー開口部が設けられていることを特徴とする請求項 4 記載の折畳バッグ。

【請求項 6】

前記大型バッグ及び前記小型バッグは、合成樹脂製であって折畳可能な肉薄な素材により形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の折畳バッグ。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、折畳バッグに係り、特に、大型バッグと小型バッグとを備える折畳バッグに関する。

【背景技術】

【0002】

特許文献 1 には、「把持部を備えた第 1 の袋体と、把持部を備え、前記第 1 の袋体より容積が大きい第 2 の袋体とで構成され、該第 2 の袋体が、前記第 1 の袋体に展開可能に装着されていることを特徴とするバッグ。」が記載されている。

特許文献 2 には、「物袋 1 とこれを細い接続用の紐 3 で繋げた小さな収納袋 2 とから成るもので買物袋 1 は常時収納袋 2 に入れておき、買物の時に収納袋 2 から取り出して使用するもので買物袋 1 と収納袋 2 は細い接続用の紐 3 で切り離せないように繋げた携帯に便利な買物袋」が記載されている。

特許文献 3 には、「ショッピングバッグの一面のいずれかの位置に該ショッピングバッグを畳み入れ可能とする開閉口付のキャラクターを取付けたことを特徴とするキャラクター内収納形ショッピングバッグ。」が記載されている。

【0003】

このように、バックに関しては様々な技術が提案されているが、より一層使い勝手のよい折畳バッグが望まれている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2010-42125 号公報

10

20

30

40

50

【特許文献2】実用新案登録第3189800号公報

【特許文献3】実用新案登録第3154367号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0005】

そこで、本考案の課題は、より一層使い勝手のよい折畳バッグを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記課題達成のため、請求項1記載の考案にあつては、大型バッグと、前記大型バッグとは分離され独立して使用できる小型バッグとを備え、前記大型バッグは、前記小型バッグを折り畳んで収納できる袋状収納部と大型バッグ本体部を折り畳んで収納できるポケット部とを有し、携帯時には、前記大型バッグ本体部を折り畳んで前記ポケット部へ収納し、使用時には前記大型バッグ本体部を前記ポケット部から抜き出し、展開して使用すると共に、前記袋状収納部から前記小型バッグを取り出して展開して使用するように構成されたことを特徴とする。

10

従って、本考案に係る折畳バッグにあつては、どんなときも迅速に取り出せてすぐに使える大きさ違いの2個のバッグをスマートに持ち運ぶことができる。

【0007】

請求項2記載の考案にあつては、前記ポケット部は前記袋状収納部の裏面側に設けられ、前記袋状収納部の側面形状および大きさと同一に形成されていることを特徴とする。

20

従って、本考案に係る折畳バッグにあつては、大型バッグと小型バッグとを同じ大きさに折り畳んで収納することができる。

【0008】

請求項3記載の考案にあつては、前記袋状収納部は、平面長方形に形成され、ポケットティッシュを保持した状態で収納できるサイズに形成されていることを特徴とする。

従って、本考案に係る折畳バッグにあつては、袋状収納部がポケットティッシュを保持した状態で収納することができるサイズ感となっており、袋状収納部をポケットティッシュ入れとして利用することもできる。

【0009】

請求項4記載の考案にあつては、前記袋状収納部は前記大型バッグの開口部の内方に設けられていることを特徴とする。

30

従って、本考案に係る折畳バッグにあつては、大型バッグの使用時に、袋状収納部は大型バッグ本体部の内部に配置される。

【0010】

請求項5記載の考案にあつては、前記袋状収納部にはファスナー開口部が設けられていることを特徴とする。

従って、本考案に係る折畳バッグにあつては、袋状収納部から小型バッグが不用意に脱落しない。

請求項6記載の考案に係る折畳バッグにあつては、前記大型バッグ及び前記小型バッグは、合成樹脂製であつて折畳可能な肉薄な素材により形成されていることを特徴とする。

40

【考案の効果】

【0011】

請求項1記載の考案にあつては、大型バッグと、前記大型バッグとは分離され独立して使用できる小型バッグとを備え、前記大型バッグは、前記小型バッグを折り畳んで収納できる袋状収納部と大型バッグ本体部を折り畳んで収納できるポケット部とを有し、携帯時には、前記大型バッグ本体部を折り畳んで前記ポケット部へ収納し、使用時には前記大型バッグ本体部を前記ポケット部から抜き出し、展開して使用すると共に、前記袋状収納部から前記小型バッグを取り出して展開して使用するように構成されていることから、どんなときも迅速に取り出せてすぐに使える大きさ違いの2個のバッグをスマートに持ち運ぶことができるため、大型バッグだけを使うことができ、小型バッグだけを使うことができ

50

、大型バッグの使用中でも、小型バッグを使うことができる。また、買い物に便利な大きさ違いの２個のバッグを様々な場面で利用でき、より一層使い勝手のよい折畳バッグを提供することができる。

【００１２】

請求項２記載の考案にあっては、前記ポケット部は前記袋状収納部の裏面側に設けられ、前記袋状収納部の側面形状および大きさと同一に形成されていることから、大型バッグと小型バッグとを同じ大きさに折り畳んで収納することができるため、大型バッグと小型バッグとを折り畳み、まとめて一体にして持ち運ぶことができる。

【００１３】

請求項３記載の考案にあっては、前記袋状収納部は、平面長方形に形成され、ポケットティッシュを保持した状態で収納できるサイズに形成されていることからポケットティッシュに適したサイズ感となっており、袋状収納部をポケットティッシュ入れとして利用することもでき、ポケットティッシュとほぼ同等のサイズで所持できるため、使用者は携帯しやすい。

【００１４】

請求項４記載の考案にあっては、前記袋状収納部は前記大型バッグの開口部の内方に設けられていることから、大型バッグの使用時に、袋状収納部は大型バッグ本体部の内部に配置されるため、袋状収納部が外部から視認されず、大型バッグの使用時の外観品質を確保でき、かつ、大型バッグの使用時における使いやすさを確保できる。

【００１５】

請求項５記載の考案にあっては、前記袋状収納部にはファスナー開口部が設けられていることから、袋状収納部から小型バッグが不用意に脱落しないため、使い勝手のよい袋状収納部とすることができる。

請求項６記載の考案に係る折畳バッグにあっては、前記大型バッグ及び前記小型バッグは、合成樹脂製であって折畳可能な肉薄な素材により形成されていることから、全体として軽量であって搬送しやすく、かつ、折畳収納時の折畳作業及び、展開しての使用時にも、展開させやすく、全体として使いやすい折畳バッグを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１６】

【図１】本考案に係る折畳バッグの一実施の形態を示す平面図である。

【図２】本考案に係る折畳バッグの一実施の形態における開放状態の大型バッグの袋状収納部を拡大して示す図である。

【図３】本考案に係る折畳バッグの一実施の形態における大型バッグおよび袋状収納部を示す図である。

【図４】本考案に係る折畳バッグの一実施の形態であって、大型バッグ本体部を折り畳んでポケット部に収納した状態の袋状収納部を示す図である。

【図５】本考案に係る折畳バッグの一実施の形態における使用状態を示す図であり、図５（Ａ）は袋状収納部を示し、図５（Ｂ）は袋状収納部から小型バッグを取り出した状態を示している。

【図６】本考案に係る折畳バッグの一実施の形態における使用状態を示す図であり、図６（Ａ）は大型バッグを示し、図６（Ｂ）は袋状収納部から小型バッグを取り出している状態を示している。

【考案を実施するための形態】

【００１７】

以下、本考案に係る一実施の形態について、図面を参照しながら説明する。なお、各図面においては、理解を容易にするために、部材の形状や寸法を誇張して図示したり一部の部材を省略したりして図示している箇所もある。

図１に示すように、本実施の形態に係る折畳バッグ１０は、大型バッグ１１と、大型バッグ１１とは分離され独立して使用できる小型バッグ１２とを備えている。大型バッグ１１および小型バッグ１２は合成樹脂製であって、折畳可能な肉薄な素材により形成されて

おり、いわゆるエコバッグとして使用することができる。

大型バッグ１１は、バッグ本体部１４及び把持部１９とを有し、小型バッグ１２は、バッグ本体部１８及び把持部２０とを有し、夫々、開口部２１及び２２を介して、内部に収納物を収納することができるように構成されている。

【００１８】

図２に示すように、大型バッグ１１には、小型バッグ１２を折り畳んで収納できる袋状収納部１３が一体的に設けられている。袋状収納部１３は側面横長長方形に形成され、開口部２１に沿って、大型バッグ１１を展開して使用する状態における収納部内方に設けられている。

図２及び図３に示すように、袋状収納部１３は、取り付け片部２３により開口部２１の上縁部に縫合固定されており、取り付け片部２３と袋状収納部１３との間には間隙部Ａが設けられ、この間隙部Ａが大型バッグ本体部１４を折り畳んで収納できるポケット部１５を形成している。

【００１９】

本実施の形態に係る折畳バッグ１０は、携帯時には、大型バッグ本体部１４を折り畳んでポケット部１５へ押し込むようにして収納し、使用時には大型バッグ本体部１４をポケット部１５から抜き出し、展開して使用すると共に、袋状収納部１３から小型バッグ１２を取り出して展開して使用するよう構成されている。

従って、本実施の形態に係る折畳バッグ１０にあっては、袋状収納部１３及びポケット部１５を利用することにより、必要時には迅速に取り出せてすぐに使える大きさ違いの２個のバッグをスマートに持ち運ぶことができる。

【００２０】

図３に示すように、上記のように、ポケット部１５は袋状収納部１３の裏面側において取り付け片部２３との間に形成されており、大型バッグ本体部１４を適宜折畳み、ポケット部１５内に、取り付け片部２３と共にしまい込むことができる。

【００２１】

大型バッグ本体部１４をポケット部１５内に収納した場合には、図４に示すように、折畳バッグ１０は袋状収納部１３のみの形態となり、この袋状収納部１３は、日常多く使用されているポケットティッシュを保持した状態で収納できる、ポケットティッシュよりもやや大きい程度のサイズ（例えば、横約１２０ｍｍ×縦約９５ｍｍ）に形成されており、幅方向中央部には長さ方向に沿ってファスナー開口部１７が設けられ、ファスナー開口部１７を開放することにより、内部に小型バッグ１２を折り畳んで、同様に収納することができるように構成されている。

【００２２】

その結果、大型バッグ本体部１４を折り畳んでポケット部１５に収納すると共に、小型バッグ１２を同様に折り畳んで袋状収納部１３内に収納した場合には、図４に示すように、大型バッグ１１及び小型バッグ１２からなる折畳バッグ１０を「ポケットティッシュ」と同じ大きさの袋体とすることができ、この状態で携帯することができる。

【００２３】

次に、本実施の形態に係る折畳バッグ１０の使用方法について説明する。

図４に示すように、携帯時には、袋状収納部１３に小型バッグ１２が折り畳まれて収納されており、ポケット部１５に大型バッグ１１が折り畳まれて収納された状態となっている。

図５（Ａ）及び（Ｂ）に示すように、小型バッグ１２だけを使用したいときは、袋状収納部１３のファスナー開口部１７を開いて、袋状収納部１３から小型バッグ１２を取り出して使用する（矢印Ｘ参照）。

【００２４】

図６（Ａ）に示すように、大型バッグ１１だけを使用したい場合には、袋状収納部１３に小型バッグ１２を収納した状態のまま、大型バッグ本体部１４をポケット部１５から引き出して展開して大型バッグ１１として形成し、大型バッグ１１を使用することができる

。

図6（B）に示すように、大型バッグ11の使用中に小型バッグ12を使用したいときは、ファスナー開口部17を開いて袋状収納部13から小型バッグ12を取り出して使用する（矢印Y、Z参照）。

【0025】

以上説明したように、本実施の形態に係る折畳バッグ10にあっては、どんなときも迅速に取り出せてすぐに使える大きさ違いの2個のバッグをスマートに持ち運ぶことができるため、大型バッグ11だけを使うことができ、小型バッグ12だけを使うことができ、大型バッグ11の使用中でも、小型バッグ12を使うことができる。また、買い物に便利な大きさ違いの2個のバッグを様々な場面で利用でき、より一層使い勝手のよい折畳バッグ10を提供することができる。

10

【0026】

また、本実施の形態に係る折畳バッグ10にあっては、大型バッグ11と小型バッグ12とを同じ大きさに折り畳んで収納することができるため、大型バッグ11と小型バッグ12とを折り畳み、まとめて一体にして持ち運ぶことができる。

【0027】

さらに、本実施の形態に係る折畳バッグ10にあっては、袋状収納部13がポケットティッシュを保持した状態での収納ができ、ポケットティッシュの収納に適したサイズ感となっており、袋状収納部13をポケットティッシュ入れとして利用することができるため、ポケットティッシュサイズで所持できるので、使用者は携帯しやすい。

20

【0028】

さらにまた、本実施の形態に係る折畳バッグ10にあっては、大型バッグ11の使用時に、袋状収納部13は大型バッグ本体部14の内部に配置されるため、袋状収納部13が外部から視認されず、大型バッグ11の使用時の外観品質を確保でき、かつ、大型バッグ11の使用時における使いやすさを確保できる。

【0029】

その上、本実施の形態に係る折畳バッグ10にあっては、袋状収納部13から小型バッグ12が不用意に脱落しないため、使い勝手のよい袋状収納部13とすることができる。

【0030】

上述した実施の形態にあっては、以下の変形が可能である。

30

（1）袋状収納部13のファスナー開口部17は、ファスナーを利用しない開口部であってもよい。

（2）ポケット部15の開口部にファスナーを配置してもよい。

（3）袋状収納部13のサイズは、ポケットティッシュよりも大きいサイズであってもよく、ポケットティッシュよりも小さいサイズであってもよい。

【産業上の利用可能性】**【0031】**

本考案は折畳バッグに係ることから、広く産業上の利用可能性を有している。

【符号の説明】**【0032】**

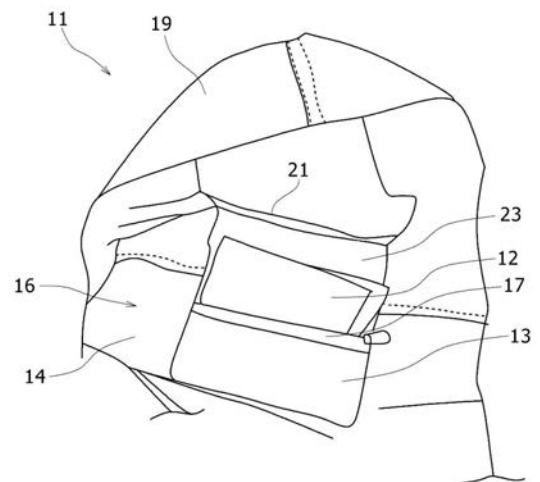
40

- 10 折畳バッグ
- 11 大型バッグ
- 12 小型バッグ
- 13 袋状収納部
- 14 大型バッグ本体部
- 15 ポケット部
- 16 開口部
- 17 ファスナー開口部
- 18 小型バッグ本体部
- 19 把持部

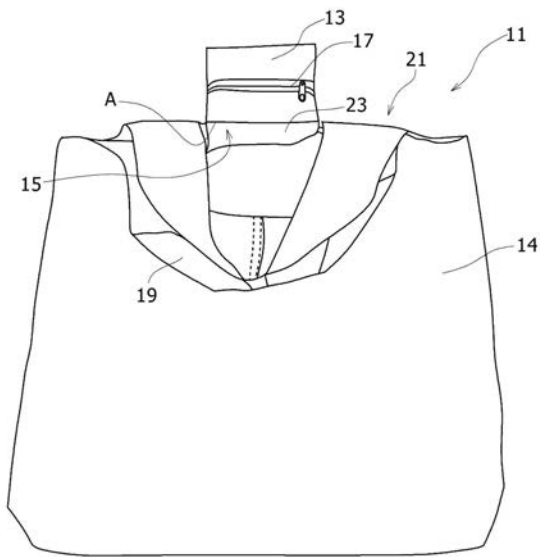
50

- 23 取り付け片部

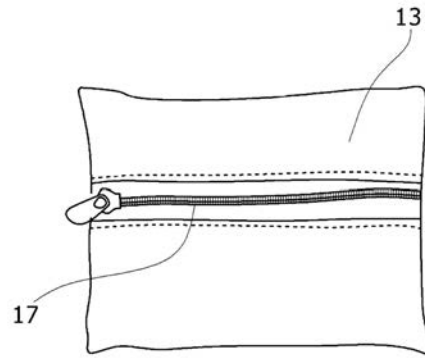
【 図 2 】



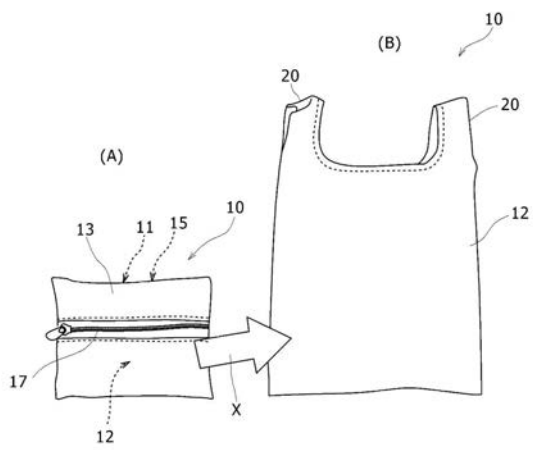
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

